

星空観察会～素晴らしい皆既月食～



写真提供：講師 小峯泰二さん

11月8日(火)化石と自然の体験館で星空観察会を開催しました。皆既月食となり月が赤く染まると大人も子どもも大騒ぎ。子どもたちは月食が進む様子をスケッチしました。また天体望遠鏡で火星と木星、土星も見ることができ「初めて土星の輪っかを見た」と感動の声が聞こえました。



卓球、上手に打てるかな



11月12日(土)、唐子地区体育館で小学生を対象に卓球教室を行いました。元中国ナショナルチーム代表の鄭慧萍コーチ等がラケットの持ち方や打ち方のコツなどを丁寧に教えてくれました。

2時間の練習で子どもたちは上手に打てるようになり、とてもうれしそうでした。鄭コーチは「何事も頑張れば成長できるので、卓球以外でもいろいろなことに挑戦してほしい」と最後に話してくれました。



サトイモゴロゴロ



11月12日(土)、市農林公園で、サトイモ収穫体験を行いました。参加者10人は、畑からお気に入りの1株を選び、スコップで掘り起こすと、土の中からサトイモがゴロゴロ出てきて「おいしそうなおサトイモがたくさん取れてうれしい」などと話していました。



子どもたちは、大きな葉っぱにも驚いている様子でした。



まちかぞえスケッチ

この広報紙にあなたが写っていらっしゃたら広報広聴課へご連絡ください。写真をさせていただきます。

令和4年度子ども大学ひがしまつやま



11月13日(日)、大東文化大学東松山キャンパスで、令和4年度子ども大学ひがしまつやま入学式と第1回講義「テレビカメラマン・アナウンサー体験」を行いました。

子ども大学は小学生のための特別な大学で、市内の大学キャンパスや動物園を会場に、子どもたちの好奇心を刺激する特色ある講義を行っています。

第1回講義では、学生がカメラマン、アナウンサー、そしてテレビ番組を演出するディレクターの3つの役割を体験し、テレビ番組がどのように作られているかを学びました。



ミニミニ情報

人口と世帯(11月1日現在)

人口	90,710人	(+ 51)
男	45,636人	(+ 27)
女	45,074人	(+ 24)
出生(10月中)	34人	(- 5)
死亡(10月中)	85人	(- 9)
転入等(10月中)	369人	(+ 55)
転出等(10月中)	267人	(- 30)
世帯数	42,291世帯	(+ 88)

*()は前月比

交通事故発生件数(10月中)

発生件数	345件※
人身事故	30件(死者:0人、けが人:35人)
物損事故	315件

※東松山警察署管内(東松山市、滑川町、川島町、吉見町)の件数

市内の空間放射線量測定結果

市内34か所で空間放射線量を定期的に測定しています。11月の測定においても、基準値を下回っています。測定結果の詳細は、市HPに掲載しています。

環境政策課 ☎63-5006 ☎23-7700

えんじょいスポーツ



テオドール・ウィル号と齋藤勇実さん 表彰式の様子

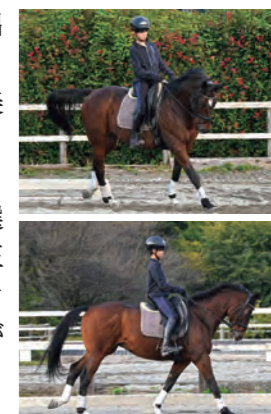
9月に静岡県御殿場市で行われた、第39回全日本ジュニア馬場馬術大会2022のチルドレンライダー選手権で5位入賞を収めた、唐子小学校6年生の齋藤勇実さんを紹介いたします。全日本ジュニア馬場馬術大会とは、全国各地で行われる公認競技会に出場し、ランキングポイント上位を獲得すると出場資格が得られる大会です。今年のチルドレンライダー(10~16歳)は38頭36人の選手が出場しました。

乗馬クラブを経営するお父さんの影響もあり、わずか2歳半から馬に乗り始め、小学校4年生のとき

に初めて馬場馬術の大会に出場しました。

馬場馬術は、馬の動きの美しさや正確さを競う種目で、馬術のフィギュアスケートとも言われています。人間(選手)の的確な指示と、馬の正確かつ華麗な動きが織りなす、人馬一体となった演技が馬場馬術の魅力です。齋藤さんは「馬への扶助(指示を伝えること)は難しいですが、演技がうまくできたときは達成感があり、楽しいです」と話してくれました。また、良い演技をするためには、馬とのコミュニケーションが大切です。元競走馬だったテオドール・ウィル号は、引退後、縁あって齋藤さんご家族の元に迎えられ、馬場馬術の才能が開花したそうです。齋藤さんが練習後に丁寧にケアをしている姿や、ふれあう様子からも、絆の深さを感じられました。

今後の目標は、来年度の全日本ジュニア馬場馬術大会で優勝することだそうです。今後の演技もウマくいきますように。応援しています。



埼玉県子ども動物自然公園

動物ZOO鑑

～園長おすすめ ミナミコアリクイ～

待ちに待ったお嫁さん!

コアラ舎の屋外放飼場にはコアラ以外の動物達も展示されています。リクガメ、イワウラビー、フタコビナマケモノ、そしてミナミコアリクイ。ミナミコアリクイは南米に暮らす哺乳類で、野生では朽ち木やアリ塚の中の虫を主食とする小型のアリクイです。2007年から飼育を始めましたが3年前から5歳の雄「チャオ」1頭のみになってしまいました。国内の動物園では数園でしか飼育されておらず、血統的に繁殖ができそうな雌はなかなか見つかりませんでした。ところが今年、チャオのお嫁さんがみつかったのです。

9月8日、那須どうぶつ王国からアナがやってきました。動物病院で14日間の検疫を終えたあとチャオがいる部屋に移動し、ケージごしのお見合いがはじまりました。3週間後、はじめて放飼場で同居をさせると、積極的なチャオに対して、あまり気にしないアナ。チャオはアナの後をついてうろうろしますが、マイペースに歩き続けるアナ。仲が悪いわけではないけれど進展のない日々が続きました。果たしてこのカップルは成立するのでしょうか?

コアリクイの赤ちゃんは、うまれるとすぐにお母さんの背中にくっつきます。一見おんぶに見えるほほましい姿ですが、実際は子供が必死にしがみついているのです。お母さんがどんなに激しく動こうと、逆さにぶら下がろうとしがみついて離れません。赤ちゃんのにつかむ力はとても強く、野生では落ちたらそれは死につながるからです。そんなたくましい赤ちゃんの姿がみられるのもペアの相性次第。あせらず待つしかありませんね。

自然たばこ中のチャオ

体がっぽいアナ

アナのうしろをついて歩くチャオ

